

授業計画書

令和5年度

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	生理学 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	大川 照明	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1.体内環境の調整メカニズムを説明できる。 2.神経における興奮伝導のメカニズムとその特徴を説明できる。 3.中枢神経系の各部位(脊髄～大脳)の役割・機能を説明できる。 4.骨格筋の収縮メカニズムを説明できる。 5.体性感覚を分類して挙げし、それぞれの特徴を説明できる。 6.身体の防御機構を説明できる。			評価方法			
授業概要	正常な人間に起こる各組織の働きとして、まず生命現象の基本としての細胞機能と生体内の情報伝達機構を教授し、次いで、植物機能と動物機能を系統別に講義する。			定期試験を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	標準PT学・OT学 専門基礎分野 生理学第5版(医学書院)	使用器材	パソコン等				
週	授業項目・内容				実施結果		
第1週	生命現象と人体(P3～P11)	A.身体の階層性 B.生命現象 C.水 D.ホメオスタシスと負のフィードバック					
第2週	細胞の構造と機能(P13～P19)	A.細胞の構造と機能 B.静止電位と活動電位					
第3週	神経の興奮伝導と末梢神経 (P21～P24)	A神経細胞の構造 興奮の発生と伝導 C末梢神経の種類					
第4週	神経の興奮伝導と末梢神経 (P24～P31)	D自律神経 Eシナプスにおける興奮の伝達					
第5週	中枢神経系(P33～P36)	A中枢神経系とは B脊髄					
第6週	中枢神経系(P38～P40)	C脳幹 D小脳					
第7週	中枢神経系(P40～P44)	E間脳:視床と視床下部 F大脳皮質					
第8週	中枢神経系(P44～P50)	G脳の高次機能 H大脳基底核と脳梁 I辺縁系 J脳室と脳脊髄液・血液脳関門					
第9週	筋と骨(P53～P63)	A筋の分類 B骨格筋					
第10週	筋と骨(P64～P69)	C心筋 D平滑筋 E 骨					
第11週	感覚(P71～P73)	A感覚とは B体性感覚					
第12週	感覚(P73～P84)	C内臓感覚 D特殊感覚					
第13週	血液(P86～P94)	A血液の組成と機能 B赤血球 C白血球					
第14週	血液(P95～P99)	D血小板 E血漿 F血液型					
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	国家試験基礎分野での重要な科目であり、復習を必ず行い資料を整理しておくこと。						

授業計画書

令和5年度

令和5年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	文章構成	授業時期	前期	授業時数	15
実務経験		担当者	小渕 由美子	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1. 基礎力(語彙・文法)、読解力(意味理解・文章構成・資料分析)、作成力(通信文・意見文)について練習問題等を通じて基礎的な文書構成ができる 2. 適切な語句の使用した論理的な文章で自分の考えが表現ができる 3. 作業療法実施での記録の重要性を理解できる				評価方法		
授業概要	「根拠に基づく作業療法」が求められる臨床において、作業療法の際に作成する評価、記録、報告書で適切に対象者の状況を表現する能力は必要不可欠である。基礎から、臨床に活用できる文章構成について学ぶ				レポート、学習態度等: 40% 小テスト: 60% (100点換算で60点以上で合格)		
教科書等	文章力が身につく本、文章検テキスト	使用器材	PC、配布資料その他				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	作業療法における文章構成の重要性について配布資料を参考に学習します 資料: 臨床家のための実践と報告のすすめ: 入門編 第1回「作業療法記録・報告書の書き方」						
第2週	文章の基礎力: 語句と文章の組み立てについて学習します(簡単な小テストを実施) 慣用句や・四文字熟語についての知識も深めます						
第3週	文章の読解力: 文章作成には、書く力があればいいというのではなく、情報を読み解く力(読む力)が必要です。意味理解・文章構成について学習します(簡単な小テストを実施)						
第4週	文章の読解力: 実際の文章を読んで要旨を把握してみましょう(感想文の作成) 「すぐれた文章とは」について理解を深めます						
第5週	演習: 「車いす体験」グループワークで自分の考えを伝え、協議するコミュニケーションスキル(話す・聞く)の向上を図ります						
第6週	演習: 「車いす体験」の発表を通じてコミュニケーションスキル(話す・聞く)の向上を図ります						
第7週	文書作成力: 正確に情報を相手に伝えるための書く力や通信文(手紙の型)について学習します(簡単な小テストを実施)						
第8週	文章作成力: 相手に自分の考えを理解し納得もらえる意見文には根拠となる事実が必要です。 技術や考える力について学習します。演習: 事実を集めめるための方法(ブレイン・ストーミング)						
授業外学習指示等	講義で簡単な小テストを実施します。文章を書く力は学習すればできるようになります。真面目に取り組みましょう。 他人の文章を読み取る力や文章作成する能力はコミュニケーション能力とも一致します。意見発表やグループワークは積極的に行動するようにしましょう。						

令和5年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	リハビリテーション概論	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	脳疾患、リハビリ系の治療経験有り	担当者	小渕 由美子	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 「人間的復権」という視点から、リハビリテーションの思想や活動を理解できる 2. リハビリテーションが社会的に認知され現在に至るまでの歴史や経過を事例等を通じて理解し、制度や専門職種の役割などを理解できる 3. 多様な障害に対してリハビリテーションはチームアプローチとして実施されており、その中の作業療法士の役割や活動を理解することができる	評価方法					
授業概要	「リハビリテーション」の意味を理解する。疾患構造の変化と高齢者社会の中で、作業療法士として、リハビリテーションの理念、歴史的変遷、その種類について学ぶ。また、医学的リハビリテーションを中心とした障害の種類やと障害のレベル、社会復帰に向けたリハビリテーション過程学ぶ。更に障害者が地域で生活するために必要とされる教育的、福祉的、職業的リハビリテーションについて学ぶ。	期末試験 80%					
教科書等	入門リハビリテーション概論 リハビリテーションの思想	使用器材	配布資料等				
週	授業項目・内容				実施結果		
第1週	イントロダクション 第7版の序:リハビリテーションの基本理念として(1)障害者の自立と社会経済活動への参加の支援がある。「障害者」「自立」とは何かを学ぶ						
第2週	第1章 リハビリテーションとは:基本理念である自立と自助との違いは何か 「個人モデル」から「社会モデル」へ障害のパラダイム(枠組)転換について学ぶ						
第3週	第2章 病気と障害 :現在日本で高齢化にともない介護が社会問題となっており、介護を必要とする原因の1つである認知症のケアについて歴史的な経緯を学ぶ						
第4週	第2章 病気や障害を持ちながらでも地域社会で本人の望む暮らしを送れる社会にするために必要なリハビリテーションを支える制度について学ぶ						
第5週	第3章 ハビリテーションとリハビリテーション「若者も高齢者も健常者も障害者も普通に生活するための共に生きる社会が正常である」ノーマライゼーションの原理について学ぶ						
第6週	第4章 リハビリテーションと心理 :リハビリテーションの過程では心身の状況を把握する面接と多くの心理検査が利用されている(認知機能を検査するスクリーニング検査の演習)						
第7週	第4章 心理的適応の過程:障害を受けた衝撃として不安・怒り・恐怖は当然の心理反応であるが時にリハビリテーションの進行にも影響する。障害受容について学ぶ						
第8週	第5章 リハビリテーションの諸問題:「医学的リハビリテーションと障害福祉サービス」疾病の自然経過と医学的リハビリテーションと機能的予後について学ぶ						
第9週	第6章 リハビリテーションの過程:評価とプログラムについて、医学的リハビリテーションの進め方におけるアセスメントの重要性やプログラムの作成までの過程について学ぶ						
第10週	第6章 リハビリテーションの過程 :チームアプローチと専門職:医学的リハビリテーションの過程では複数の専門家によるチームアプローチが行われている。専門職の役割について学ぶ						
第11週	第6章 リハビリテーションの過程:医学的リハビリテーションの進め方:アセスメントの重要性や評価からプログラムの作成までの過程について学ぶ						
第12週	第6章 リハビリテーションの目的は生活の質(QOL)の向上を含めたものへと拡大している。演習 ①生活の質の評価方法 ②生活の質を上げるために活動						
第13週	第7章 機能障害をもたらす主な疾患と外傷、先天異常および精神障害障害者基本法から機能障害の諸相について学ぶ						
第14週	第8章 リハビリテーションを支える社会保障制度 :自助・公助・共助の三者間のバランスのとれた福祉の達成が望まれる。社会保険制度について学ぶ						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	リハビリテーション=機能訓練と考えられがちですが、深い思想や哲学や人間理解に裏打ちされた活動です。対象者の望む生活に向けて援助する作業療法士の基本となる考え方を理解することが重要です。座学に加え動画視聴やレポートなど様々な内容により、リハビリテーションへの理解が深まるように学習していきます						

令和5年度

授業計画書

授業計画書

令和5年度

授業計画書

令和5年度